

会長就任のご挨拶

吉村 一良



この度、会員の皆様方のご推挙により、伝統ある粉体粉末冶金協会の会長という大役を仰せつかり、令和2年より第27代目の会長に就任いたしました。大変光栄であるとともに身の引き締まる思いであります。本協会初代会長の岩瀬慶三先生は、私の3代前の京都大学大学院理学研究科化学専攻金相学研究室の教授であり、また私は、東北大学金属材料研究所（金研）の創設者であり岩瀬先生と盟友でもあった高名なる本多光太郎先生の孫弟子にも当たります。さらに本協会の設立は1958年（昭和33年）ということで、私の生年と同じでもありまして（当協会と私は同い年であります）、何か深いご縁の様なものを感じずにはおれません。当協会会長職は、2年任期で伝統的に学界と産業界が交互に務める形であり、産学連携を強めて行く上で大変良いシステムとなっておりますが、川崎前々会長、林前会長の後を受けまして、これまでの協会運営を継承しつつも、新たな協会の形・在り方を打ち出して行きたいと決意を新たにしております。

本年は、ご存じのように昨年発生した新型コロナウイルスの感染（COVID-19）の猛威が世界を震撼させ、パンデミックと言われる未曾有の危機的状況に直面し、2020東京オリンピックも来年に延期になり、インターハイや春夏甲子園大会など数々の大きなイベントが中止の事態となっております。当協会の関係でも粉末冶金の世界大会であるWorld PM2020のカナダ開催や当協会の本年度春季大会の中止、粉末冶金講座の延期など余儀なくされております。COVID-19は感染爆発などの言葉が生まれるほど、医療現場には、世界的規模の重大な危機をまねくと同時に、対面型での全ての活動が自粛・規制され、経済的にもリーマンショックをしのぐ大きな影響となることが予想されております。大学でも対面型の授業・会議が難しくなり、オンラインによるもののみが許される状況となっております。研究・教育活動が思うように出来ない状態が続いております。産業界でもテレワーク（自宅でのオンライン・リモートワーク）の推奨・実施がなされ、社会的な動向となっております。そのような中、新たな感染者数がようやく大きく減少し、感染収束の兆しが見えてきており、日本における非常事態宣言も解除されるに至ってまいりましたが、人間の密接なる関係が規制されるような人類の生き方そのものが変革を求められる事態となっております。

しかしながら、COVID-19の猛威を後ろ向きにとらえるだけではなく、オンラインリモート授業、オンライン会議、テレワーク活動などの利点や重要性の再確認ができ、今回の世界的危機を前向きにとらえて進んでいくことの重要性も見えてきたのではないのでしょうか。当協会の活動でもオンラインを併用した理事会や出版・編集委員会などの各委員会の開催、春秋大会や粉末冶金講座、国際会議のあり方など多くのことが変化してきています。また、こんな大惨事の時こそ、大きな力を発揮し、それを解決して乗り越えていくのが我々日本人ではないのでしょうか。後ろ向きにとらえるのではなく、逆に前向きにとらえて、協会活動の維持やさらなる発展へと結びつけていく方策を見極めて行くことが肝要ではないかと思えます。

当協会誌「粉体および粉末冶金」の充実（投稿数の増強と内容・あり方の検討）、会員数の維持と増強、分科会・委員会活動の活性化、春秋大会や粉末冶金講座、当協会の国際会議のありかた取り組みなど様々な課題に取り組み、さらなる協会活動を考えて参りたいと存じます。

やはり、ものづくりは日本の研究・産業の根幹であり、それを支える当協会の役割は非常に大きいと考えます。新たな生活様式を考慮した新たな産学連携を構築していくことが、粉体粉末冶金協会のさらなる発展に繋がるものと考えます。60周年記念事業の国際研究集会参加助成なども継続しつつ、協会活動の確固たる確立とその維持、そして新たな国際会議の開催の慣習化を目指すなど、協会活動の次のステージに向けて邁進していく所存であります。そのためには、副会長や各委員長はじめ役員の皆様、事務局の皆様、そして何よりも会員の皆様方のご協力・ご支援が必要不可欠です。何卒、よろしくお願い申し上げます。

2020年6月